

9/9 (木)

# 新潟日報

# 夕刊

発行所 新潟日报社  
本社 〒950-1189 新潟市西区善久772-2

2010年(平成22年)

題字 會津 八一

第24343号

「Emotional Share (エモーションナル・シェア)」。この言葉は、障がい者スキースクール・ネージュのスタッフがカナダの研修で教官からもらったものです。

日本語に訳すと「感情の共有」。ゲストと共に感じ、一緒に笑い、苦勞し、喜ぶということが大切だと教えてくれたそうです。

多くのゲストと向き合ってスポーツを提供するとき、自分自身この「感情の共有」ができているかというのを大切にしています。



私たちにあって、毎日見る山々の景色、風の音や薫りは「日常」です。しかしゲストにとっては非日常。ましてアダプティブ(障がい者)にとつては、「不可能」だった友人と一緒にハイキングやスキーが、可能になるかもしれない日なのです。

ゲストと長時間を共にする私たちが同じ感動や目線を持たなければ、せっかくの日がしらけた休日になってしまいます。

カヌーが怖くて近づくことさえできなかった男の子が、ほんの一瞬乗ることができたとき。手袋を着けるのに介助が必要だったのに、45分かけて自分でできた

## 感情の共有

とき。15センチかバランズを保てず、すぐに転倒していたスキーが、1分滑れるようになったとき。

私たちにしてみれば、なんてことないことです。でも、ゲストにとっては、それは感動に値する進歩。その感動をしっかりと見て、共に分かち合うことはとても大切なことです。

新潟県は国内有数の豪雪地。冬季はスキー場関係の仕事に就く人も多いのですが、この産業に近年元気がありません。



もし、私のような若輩者でも何か提案できるとすれば、スキースクールで指導をしている人たちに、もっとこの「Emotional Share」の気持ちを持ってほしいと思います。

「先生と生徒、教えてやる側と教えていただく側」。そういう関係でなく、一緒に楽しみ、一緒に苦勞して汗だくになり、できたときに一緒に満面の笑みで喜ぶ。感情を共有できたとき、そのゲストはファンに変わりますから。